

第4回一関市総合計画審議会 会議録

1 会議名 平成27年度第4回一関市総合計画審議会

2 開催日時 平成27年9月30日(水) 午前10時から12時まで

3 開催場所 一関保健センター1階会議室2

4 出席者

(1) 一関市総合計画審議会委員 18人

阿部新一委員、小山亜希子委員、金野久美委員、小岩邦弘委員、坂本紀夫委員、佐藤芳郎委員、菅原行奈委員、菅原勇委員、高橋雅弘委員、千葉博委員、千葉真美子委員、徳谷喜久子委員(副会長)、永山克男委員、沼倉恵子委員、畠中良之委員(会長)、原田哲委員、松岡千賀子委員、三浦幹夫委員、

(欠席委員 9人)

及川修三委員、及川忠委員、小山麗子委員、木村静恵委員、菅原五三男委員、千田博委員、槻山チエ委員、永澤由利委員、水谷みさえ委員

(2) 市出席者 4人

佐藤善仁市長公室長、千葉敏紀政策企画課長、藤島修政策企画課主幹、菊地絵理子政策企画課主任主事

5 会長挨拶

前回の第3回総合計画審議会後、プロジェクトチームを設置し、重点プロジェクトとまちづくりの進め方について検討した。今回は事務局で修正した案を議題としているので、重点プロジェクト、まちづくりの進め方、分野別計画についてご意見をいただきたい。総合計画審議会委員の多くの意見を取り入れて答申したいと思う。

まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議の開催結果が新聞に掲載されていた。国からの総合戦略の策定については、全国の自治体で同じ課題を持っている。当市は県境に位置しており、平泉と定住自立圏を形成しているという特徴はあるが、課題は横並びのため、他の自治体と同じような施策になってしまう。

そこで、民間の人間が行政とどれだけ連携して知恵を出し合っているかが大切だと思う。より勉強して、互いに切磋琢磨して知恵を出し合い、より良い一関市をつくりたいと思う。

6 議題 (1) 総合計画前期基本計画の策定について

(仮) 重点プロジェクト草案について【資料No.13】

まちづくりの進め方草案について【資料No.14】

(2) 総合計画審議会委員からの意見への回答について【資料No.15】

7 審 議

(1) 総合計画前期基本計画の策定について

(仮) 重点プロジェクト草案について【資料No.13】

まちづくりの進め方草案について【資料No.14】

事務局から資料の説明を行い、質疑・意見を求めた。

【質疑・意見等】

① 審議会委員意見

まち・ひと・しごとの創生プロジェクトの目標に平成 52 年に 8 万 6 千人程度の人口を確保するという記載があるが、この数値目標はどのように算出したものか。

・ 事務局

人口ビジョンで算出したもの。総合戦略で出生率の増加、社会減を抑えた施策を行った場合の数値目標である。

② 審議会委員意見

東京電力に賠償請求した経過と支払われた金額を教えてください。

・ 事務局

市で放射線対策として行った人件費のほか、風評被害等を含めた減収金額を請求したが、減収部分はカットされた。

風評被害等で減収となった分は東京電力からの損害賠償ではなく、100 パーセント手当てされるようを国に要望している。

そのほか、賠償請求しても支払われなかった部分についてはADR（裁判外紛争解決手続）に申し立てし、和解での手続きに入っている。

賠償金額については、担当課に確認し、後日資料を提出する。

③ 審議会委員意見

現在本市が抱えている一番の課題は人口減少である。まち・ひと・しごとの創生プロジェクトについて、若い人の定住、子育て等が掲げられているのはそのとおりだと思うが、これだけで人口減少を止められるか。ILCという要素はあるが、外国人の受け入れの記載はない。本市はILCの啓発もあり、他のまちより外国人の受け入れについて市民の理解はあると思う。

他の自治体ではシングルマザーを受け入れる施策を行っているところもあるが、本市では、外国人の受け入れについての文言を入れた方がよいのではないかと。

・ 会長

意見として承る。

- ④ 審議会委員意見
子育て応援とあるが、子育て支援とどう違うか。
- ・ 事務局
支援は支えて助ける、応援は応じて助けるという意味合いと捉え、行政の支援だけではなく、地域ぐるみで助けていくという意味合いを込めて応援とした。そして親が子育てを楽しむことができるという表現を加えたもの。応援と支援のどちらが良いかご意見をいただきたい。
- ⑤ 審議会委員意見
タイトルは応援で、中身は支援となっているので、このとおりで良いと思う。
- ⑥ 審議会委員意見
全市をあげて子育てを応援するという意味合いとなるので子育て応援で良いと思う。施策は支援となるのではないか。
- ・ 会長
タイトルは子育て応援とし、本文は子育て支援とする。
- ⑦ 審議会委員意見
社会全体で子育てを支援し、次代の担い手を応援するまちを目指します。については、支援と応援の使い方について検討した方がよい。
- ・ 会長
事務局で検討する。
- ⑧ 審議会委員意見
しごとプロジェクトについて、市が、直接しごと（働く場）をつくることはできないので違和感がある。市民が力を発揮できる仕事を創出し、とあるが、主語が市となるとおかしい。
- ・ 事務局
国では、地域における魅力ある多様な就業機会の創出（しごと）としているので、広い意味でしごとづくりとしたもの。本文にある、市民が力を発揮できる仕事を創出し、の文言は調整する。
- ⑨ 審議会委員意見
まち・ひと・しごとに対応した内容なのでしごとでよいと思う。また、創業、起業しやすい環境をつくることは行政の役割である。
- ⑩ 審議会委員意見
しごとづくりプロジェクトについて、キャリアアップすることが地域に貢献するこ

とにつながるため、若者の定着を推進します。の文言にキャリアアップを追加し、若者の定着とキャリアアップを推進します。とした方がよい。

⑪ 審議会委員意見

人口ビジョンの資料を見ると、地域ごとの差が大きいと感じる。市全体をまとめた計画とせずに、地域の分析を生かした計画にしなければならないと思う。

⑫ 審議会委員意見

地場産業の振興も必要だと思うので、もう少し色濃く記載した方がよい。

⑬ 審議会委員意見

東日本大震災からの復旧復興について、避難所となる公共施設に再生可能エネルギーを活用した発電施設の整備を進める。と読めるが、以前提案したところ、避難所となる公共施設には、再生可能エネルギーの活用はできないとの回答だった。

・ 事務局

項目をまとめて文章としたので、そのような表現になった。担当課に確認して修正する。

⑭ 審議会委員意見

まちづくりの進め方の協働のまちづくりについて、行政と市民が対峙した記載となっているので工夫した方がよい。

地域のイベント等に職員の参加が少ないので、職員も地域づくりに参加するということをもう少し工夫して記載した方がよい。

⑮ 審議会委員意見

県際連携について、ILCを基軸としたまちづくりに関係して、気仙沼市と連携した方がよい。

⑯ 審議会委員意見

まちづくりの進め方について、第三セクターの記載があるが、どの第三セクターを指しているか。また、設立目的が遂行されているかチェックする必要があるのではないか。

・ 事務局

当市には第三セクターがあるので、どのように振興していくかという意味の経営改善、健全化に触れた記載である。

⑰ 審議会委員意見

公共工事についての記載で、常にコストを意識し、とあるが、コストだけではなく、

品質も意識するべきである。

⑱ 審議会委員意見

行政情報の周知について、コミュニティエフエム放送の活用による行政情報の周知とあるが、コミュニティエフエム放送を強調しているように感じる。

- ・ 事務局
記載の順序について検討する。

⑲ 審議会委員意見

学校でも節約に取り組んでいるが、行政として、学校での節電、節水の取組は大きいと思われる。そのため、再度、学校に節約について見直して取り組むように周知してほしい。

- ・ 事務局
担当課に伝える。

⑳ 審議会委員意見

子育て応援プロジェクトについて、小さい子どもを想定しているような文言となっているので、中学生、高校生までもイメージできるような文言としてほしい。

㉑ 審議会委員意見

ILCを基軸としたまちづくりについて、「真の国際性」の涵養とはどのような意味合いか。難しい文言だと思う。

- ・ 事務局
修正する。

㉒ 審議会委員意見

公共工事の記載について、コストだけではなく、経済効果という面からも地元の業者をつかうことも大切である。

(2) 総合計画審議会委員からの意見への回答について【資料No.15】

- 事務局から、質疑・意見を求めた。
- ・ 質疑・意見はなし

午前 12 時 閉会

8 公開、非公開の別 公開

9 傍聴者の数 1 人（報道機関）

10 担 当 課 市 長 公 室 政 策 企 画 課